

エコアクション21

環境経営レポート

2024年度

(2024年1月1日～2024年12月31日)

1. 組織の概要	P.1
2. 対象範囲	P.3
3. 実施体制	P.4
4. 環境経営方針	P.5
5. 環境経営目標	P.6
6. 環境経営計画	P.7
7. 環境経営計画・目標の取組結果と実績の評価及び次年度の取り組み内容	P.8
8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	P.10
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.11
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	P.12

2025年3月12日発行

株式会社STO

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社STO

代表取締役 川合慎太郎

(2) 所在地

認証・登録範囲

本社・綾瀬プラント 〒252-1108 神奈川県綾瀬市深谷上8丁目14番17号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 西村 勇士

担当者 西村 勇士

連絡先 〒252-1108 神奈川県綾瀬市深谷上8丁目14番17号

Tel 0467-38-4266 Fax 0467-38-4276

E-mail nishimura@e-odei.com

(4) 事業活動の内容

産業廃棄物中間処理業

(5) 事業の規模

(1) 法人設立年月日:平成22年10月7日

(2) 資本金:2,000万円

112450

事業規模

活動規模	単位	2023年度	2024年度
売上高	百万円	1,450	1,124
従業員	人	7	7
延床面積	m2	114	114
敷地面積	m2	4,303	4,303

受諾廃棄物量

	2023年度	2024年度
中間処理量(t)	216,715	169,138
再資源化量(t)	216,715	169,138

産業廃棄物収集運搬業許可取得内容

許可地域	有効期限	許可年月日	許可番号	産業廃棄物の種類 ◎（石綿含有産業廃棄物を含む。）																		
				燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	鉱さい	がれき類	ばいじん	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	動物系固形不要物	動物のふん尿	動物の死体
神奈川県	R8.12.22	R3.12.23	01402225327	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○				

産業廃棄物処分業許可取得内容

有効期間	許可年月日	神奈川県許可番号	産業廃棄物の種類	中間処理施設	処理能力
R9.5.30	R4.5.31	01422225327	汚泥	薬注固化施設	2,295m ³ /日（17時間）

受入物保管施設

受入槽A	保管面積 144m ²	最大保管量 360m ³	屋外ピット
受入槽B	保管面積 144m ²	最大保管量 360m ³	屋外ピット
受入槽C	保管面積 48m ²	最大保管量 360m ³	屋外ピット

処理後物保管施設

保管槽A	保管面積 144m ²	最大保管量 360m ³	屋外ピット
保管槽B	保管面積 144m ²	最大保管量 360m ³	屋外ピット

(2) 施設等の状況

① 産業廃棄物中間処理業

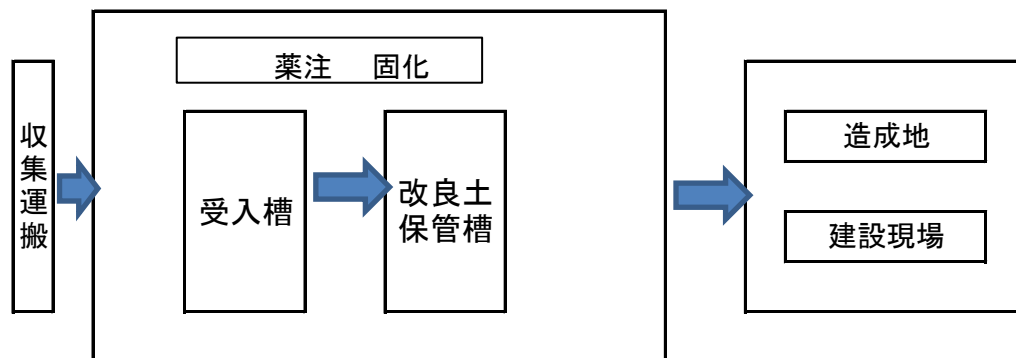
処理施設名: 汚泥中間処理プラント

処理する産業廃棄物の種類: 汚泥(無機性汚泥)

処理方式: 薬注固化

処理能力: 2295m³/1日 (24時間受入可能)

② 処理工程図



2. 対象範囲

(1) 認証・登録対象組織

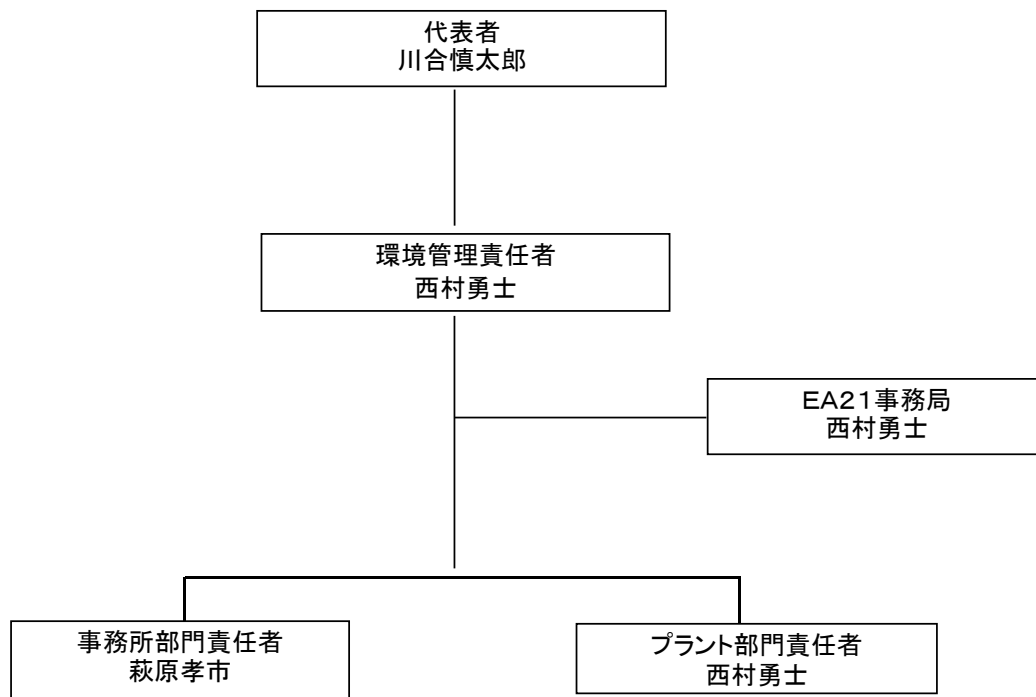
本社・綾瀬プラント 〒254-0026 神奈川県綾瀬市深谷上8丁目14番17号

(2) 認証・登録対象活動

産業廃棄物中間処理業

3. 実施体制

実施体制及び責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者	1. 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 2. 環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する。 3. 効果的で必要十分な実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定め全従業員に周知する。 4. 環境経営に必要な資源（人・もの・資金・情報）の用意する。 5. 環境経営全体の取組状況を評価し、総括的見直し、必要な指示を行う。
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する 5. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 3. 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
部門責任者	1. 自部門における環境経営システムの実施、環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施、自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 2. 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 3. 特定された項目の手順書作成及び運用管理 4. 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 5. 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	1. 環境経営方針を理解し、部門の環境経営計画に従って活動する。

4. 環境経営方針

基本理念

当社は、地球にやさしい事業活動を展開し、循環型社会へ対応した環境に負荷をかけない適正な処理を実現するとともに環境創造型企業として社会に貢献していきます。

行動指針

当社は上に掲げた基本理念に基づき、事業活動を通じて、地球環境の改善、環境にやさしい会社の実現を目指し、以下の項目に取り組み継続的改善を図ります。

1. 搬入された産業廃棄物(汚泥)はすべてリサイクルします。
2. 関連する法規制類を遵守し、環境保全及び汚染の予防に細心の注意を払い且事業活動を通して近隣の発展に貢献する。
3. 地球環境保護のために、省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進します。
 - ① 燃料(軽油、ガソリンなど)使用量の削減
 - ② 電気使用量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ 廃棄物排出量の削減
4. この方針は、当社で働く又は当社のために働く全ての人に周知され、社内外に公表します。

2022年9月1日
株式会社STO
代表取締役 川合 慎太郎

5.環境経営目標

2024年度 環境経営目標

No	環境方針・目標項目		基準値	CO2 換算係数	中 長 期 目 標		
			(2023年度)		2024年度	2025年度	2026年度
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	電力使用量		基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
			38,298 kWh／年	0.443	37,915 kWh／年以下	37,532 kWh／年以下	37,532 kWh／年以下
		化石燃料消費量の削減	年間消費量		基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
			LPG <kg>	3.00	30.7	30.4	30.4
			31.0		kg／年以下	kg／年以下	kg／年以下
			ガソリン <L>	2.32	1,260	1,248	1,248
			1,273		L／年以下	L／年以下	L／年以下
			軽油 <L>	2.58	134,325	132,968	132,968
			135,682		L／年以下	L／年以下	L／年以下
		計(kg-CO ₂)	370,072 kg-CO ₂		366,371 kg-CO ₂ ／年以下	362,670 kg-CO ₂ ／年以下	362,670 kg-CO ₂ ／年以下
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	CO2原単位 (kg-CO2/処理量)	1.71 kg-CO2/m ³	1.691 kg-CO2/m ³	1.673 kg-CO2/m ³	1.673 kg-CO2/m ³
			一般廃棄物排出量		基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
		産業廃棄物排出量の削減	2,700 ℓ／年		2,673 ℓ／年以下	2,646 ℓ／年以下	2,646 ℓ／年以下
			業廃棄物排出量		基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
3	水使用量の削減		0 kg／年		0 kg／年以下	0 kg／年以下	0 kg／年以下
			水道使用量		基準値に対し 1 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減
4	製品の品質向上		1,197 m ³ ／年		1185.0 m ³ ／年以下	1173.1 m ³ ／年以下	1173.1 m ³ ／年以下
			クレーム件数		基準値に対し %向上	基準値に対し %向上	基準値に対し %向上
			0 件／年		0.0 件／年以下	0.0 件／年以下	0.0 件／年以下

※購入電力のCO2排出係数: R4年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数0.443kg-CO2/kWh使用

※※環境経営目標の基準値は2023年度の実績を基準とする。

※化学物質は使用していない。

6.環境経営計画

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	目標達成手段	責任者	スケジュール 2024年1月～2024年12月
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	・不要照明の消灯 ・間引きの実施 ・退社時の電源OF ・エアコン温度設定最適化	川合	(左記達成手段全て)
		化石燃料使用量の削減	・停車時のアイドリングストップの励行 ・車輛点検整備の徹底 ・低燃費車の導入検討 ・重機の効率的な動きの検討 ・散水機点検整備の徹底 ・低燃費設備の導入検討 ・適正な温度管理	西村	(左記達成手段全て)
				西村	(左記達成手段全て)
		CO ₂ 総量計 (kg-CO ₂)	・電力,化石燃料の削減施策実行	川合	(左記達成手段全て)
		CO ₂ 原単位 (kg-CO ₂ /百万円)			
2	一般廃棄物排出量の削減	・コピー紙等のリサイクル ・一廃分別の徹底 ・ミスコピーの削減 ・電子メディアによるペーパーレス化	荻原	(左記達成手段全て)	
	産業廃棄物排出量の削減	・リサイクルの推進 (フレコンのリターナブルの検討) ・分別の徹底	荻原	(左記達成手段全て)	
3	水使用量の削減	・節水の意識を高める(周知徹底) ・洗車時の節水 ・節水シールの貼り付けとポスター掲示	川合	(左記達成手段全て)	
4	製品の品質向上	・汚泥処理手順の厳守 ・品質確認の順守	川合	(左記達成手段全て)	

7.環境活動計画、環境目標の実績、環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取り組み内容

No	環境方針・目標項目		施策	基準値	CO2 換算係 数	2024年度			実施した取組内容及び次年度の 取り組み内容
				(2023年度)		目標	実績	評価	
1	二酸化 炭素排 出量の 削減	電力使用 量の削減	・不要照明の消灯 ・間引きの実施 ・退社時の電源OFF ・エアコン温度設定最適化	電力使用量	0.443	基準値に対し 1 %削減		○	不要照明の消灯では間引きの実 施、空調温度の適正化では朝礼 時の呼びかけを実施し徹底した。 絶対値では目標達成であるが原 単位では目標は未達成。今後も 継続して施策を展開する。
				38,298 kWh／年		37,915 kWh／年	35,227 kWh		
		化石燃料 消費量 の削減	・停車時のアイドリングス トップの励行 ・車両点検整備の徹底 ・低燃費車の導入検討 ・重機の効率的な動きの検 討 ・散水機点検整備の徹底 ・低燃費設備の導入検討 ・適正な温度管理	年間消費量	3.00	基準値に対し 1 %削減		○	ガソリンは車両の洗浄等で使用、 軽油はユンボ等4台の燃料として 使用しているが絶対値では目標 達成であるが中間処理量当たり の原単位ではガソリン・軽油とも に目標未達成。更なる電力、化石 燃料の取り組みを展開する。
				LPG <kg> 31		30.7 kg／年	25.6 kg		
				ガソリン <L> 1,273	2.32	1,260 L／年	1,465 L	×	
				軽油 <L> 135,682	2.58	134,325 L／年	129,737 L	○	
		計(kg-CO ₂)	・電力、化石燃料の削減施 策実行 (kg-CO2/中間処理量)	370,072 kg-CO ₂		366,371 kg-CO ₂	353,802 kg-CO ₂	×	
		CO2原単位 (kg-CO2/m ³)		1.71 kg-CO2/m ³		1.69 kg-CO2/m ³	2.09 kg-CO2/m ³		
2	廃棄物 排出量 の削減	一般廃棄物 排出量 の削減	・コピー紙等のリサイクル ・一廃分別の徹底 ・ミスコピーの削減 ・電子メディアによるペー パーレス化	一般廃棄物		基準値に対し 1 %削減		×	デスク上での記入上のミスがな いか確認しコピーミスの削減や分 別を徹底しての裏紙使用等を徹 底した。今後も継続展開する。
				2,700 ℓ／年		2,673 ℓ／年	2,700 ℓ		
		産業廃棄物 排出量 の削減	・リサイクルの推進 (フレコンのリターナブルの 検討) ・分別の徹底	産業廃棄物		基準値に対し 1 %削減		○	フレコンのリターナブルを実施し 今年度は産業廃棄物を0にすること ができた。今後も継続展開す る。
				0 kg／年		0 kg／年	0 kg		
3	水使用量の削減	・節水の意識を高める(周 知徹底) ・洗車時の節水 ・節水シールの貼り付けと ポスター掲示	水道使用量			基準値に対し 1 %削減		×	水使用量は目標を大きくオーバ ーした。水使用量の多くは搬入トラックの 汚泥を清掃するために使用してい る。トラックはダンプ車とタンク車で搬 入されてくるが今年度はタンク車で の搬入が多くなっている。タンク車はダ ンプ車と比較すると清掃するのに多く の水を使用しており、また人によって 清掃するための水使用量のバラツキ もあることが判った。清掃手順をは っきりさせ教育を実施する。
				1,197 m ³ ／年		1,185 m ³ ／年	1296.0 m ³		
4	製品の品質向上	・汚泥処理手順の厳守 ・品質確認の順守	クレーム件数			基準値に対し 0 %向上		○	処理手順及び品質確認の遵守が 徹底され品質の向上が図れた。 今後継続展開を図る。
			0 件／年			0 件／年	0 件		

※購入電力のCO2排出係数：R4年度東京電力エナジーパートナー調整後排出係数0.443kg-CO2/kWh使用

※環境経営目標の基準値は2023年度の実績を基準とする。

※化学物質は使用していない。

8. 次年度の環境経営計画

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	目標達成手段	責任者	スケジュール 2025/1/1～2025/12/31
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	・不要照明の消灯 ・間引きの実施 退社時の電源OFF ・エアコン温度設定最適化	川合	(左記達成手段全て)
		化石燃料使用量の削減	・停車時のアイドリングストップの励行 ・車輛点検整備の徹底 ・低燃費車の導入検討 ・重機の効率的な動きの検討 ・散水機点検整備の徹底 ・低燃費設備の導入検討 ・適正な温度管理	西村	(左記達成手段全て) (左記達成手段全て)
		CO ₂ 総量計(kg-CO ₂)			
		CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ /百万円)		・電力、自動車燃料の削減施策実行	川合
2	一般廃棄物排出量の削減	・コピー紙等のリサイクル ・一廃分別の徹底 ・ミスコピーの削減 ・電子メディアによるペーパーレス化	荻原	(左記達成手段全て) 	
	産業廃棄物排出量の削減	・リサイクルの推進(フレコンのリターナブルの検討) ・分別の徹底	荻原	(左記達成手段全て) 	
3	水使用量の削減	・節水の意識を高める(周知徹底) ・洗車時の節水 ・節水シールの貼り付けとポスター掲示 ・洗車時の水使用量の改善案の検討 ・清掃手順をはっきりさせ教育を実施する。	川合	(左記達成手段全て) 	
4	製品の品質向上	・汚泥処理手順の厳守 ・品質確認の順守	川合	(左記達成手段全て) 	

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反,訴訟等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守状況の確認・評価	
		チェック日	結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(産業廃棄物の適正処理)	2024/11/11	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	2024/11/11	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	2024/11/11	○
綾瀬市廃棄物の減量化、資源化	事業活動を行うに当たり、減量化及び資源化に努めるとともに、事業系廃棄物を自らの責任において適正に処理することに関する条例	2024/11/11	○

当社に係る環境関連法規等は上記の通りですが、遵守状況を2024年11月に確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

代表者による全体の評価と見直し・指示
結果報告書

見直し実施日	2024年3月10日(月)			(☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し)		
見直し対象期間	2024年1月1日～2024年12月31日					
出席者	川合社長, 西村環境管理責任者			場所 本社 会議室		
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況(環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営計画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による) ③適用範囲、実施体制 ④問題点の是正処置及び予防処置の結果(是正／予防処置報告書による) ⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果(外部コミュニケーション記録による) ⑥その他(法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)					
代表者による評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) 二酸化炭素排出の削減昨年度より原単位目標(中間処理量)を決め継続実施している。今後も原単位で見たい。全体的には環境経営システムが有効に機能し始めていると思われる。 【環境経営への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)					
	目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況	目標・経営計画実施状況の評価(達成の場合:目標設定方法や取組方法の問題点、次年度の方向性 未達の場合:原因の明確化、次年度の目標や対応策)		
	二酸化炭素排出の削減	×	○	絶対値で見るとガソリンは車両の洗浄等で使用、軽油はユンボ等4台の燃料として使用で目標達成である。原単位でみると中間処理量は約22%減少しておりCO2全体での削減では原単位で目標未達成である。		
	廃棄物排出量の削減	○	○	一般廃棄物排出量は若干目標未達。産業廃棄物のフレコンはリターナブル化を実践し成果が出た。		
	水使用量の削減	×	○	水使用量は目標を大きくオーバーした。水使用量の多くは搬入トラックの汚泥を清掃するために使用している。トラックはダンプ車とタンク車で搬入されてくるが今年度はタンク車で搬入が多くなっている。タンク車はダンプ車と比較すると清掃するのに多くの水を使用しており、また人によって清掃するための水使用量のバラツキもあることが判った。清掃手順をはっきりさせ教育を実施する。		
	クレーム件数	○	○	汚泥処理手順及び品質確認の遵守が徹底され品質の向上が図れた		
代表者による見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	【環境経営方針】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無					
	現在の環境経営方針を維持する。					
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無					
	昨年より二酸化炭素排出量の削減では中間処理量の原単位目標で計画した。目標値は昨年までは2022年通年の実績は運用期間相当×4としていたが(前年1年間のデータがないため)2024年度(今年度より)2023年の実績を基準に目標を見直しました。					
	【実施体制】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無					
	現在の実施体制を維持する。					
	【環境経営システム】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無					
現在の環境経営システムを維持する。						
【総括】 二酸化炭素排出の削減は昨年は売上高原単位で目標で進めてきたが昨年度よりCO2は中間処理量当たりの原単位でみている。今年度は中間処理量が昨年度より20%強減少したため原単位目標は未達成となった。仕事の改善をすることによって環境負荷の削減につながることを認識しているので環境経営システムの中で本業の改善をさらに進め環境の負荷の削減につなげていく。						